

旭化成における知財DXと AI実装の最前線

特許AIプラットフォーム「Patlytics」による
侵害調査プロセスの劇的進化とアセットライト戦略の実現

Case Study Synthesis | Strategic Blueprint

戦略的背景

経営戦略

中期経営計画『Trailblaze Together』（2025年度～）。
アセットライト型ビジネスモデルの推進と、無形資産（技術・ノウハウ）の価値最大化。

知財体制の進化

先進的な知財経営体制の構築。
「知財インテリジェンス室」の設立（2022年）と、
全社的なIPランドスケープの展開。

現場の使命

自社特許の防御と、ソリューション・ライセンス型事業を支
えるプロアクティブなグローバル・ライセンス戦略の実行。

構造的ボトルネック

証拠収集の限界

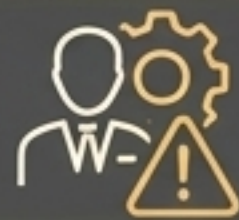
公開情報や解体レポート（Teardown）からの使用証拠（EoU）の手動収集。
多言語・複数法域にまたがる高い障壁。

膨大な探索

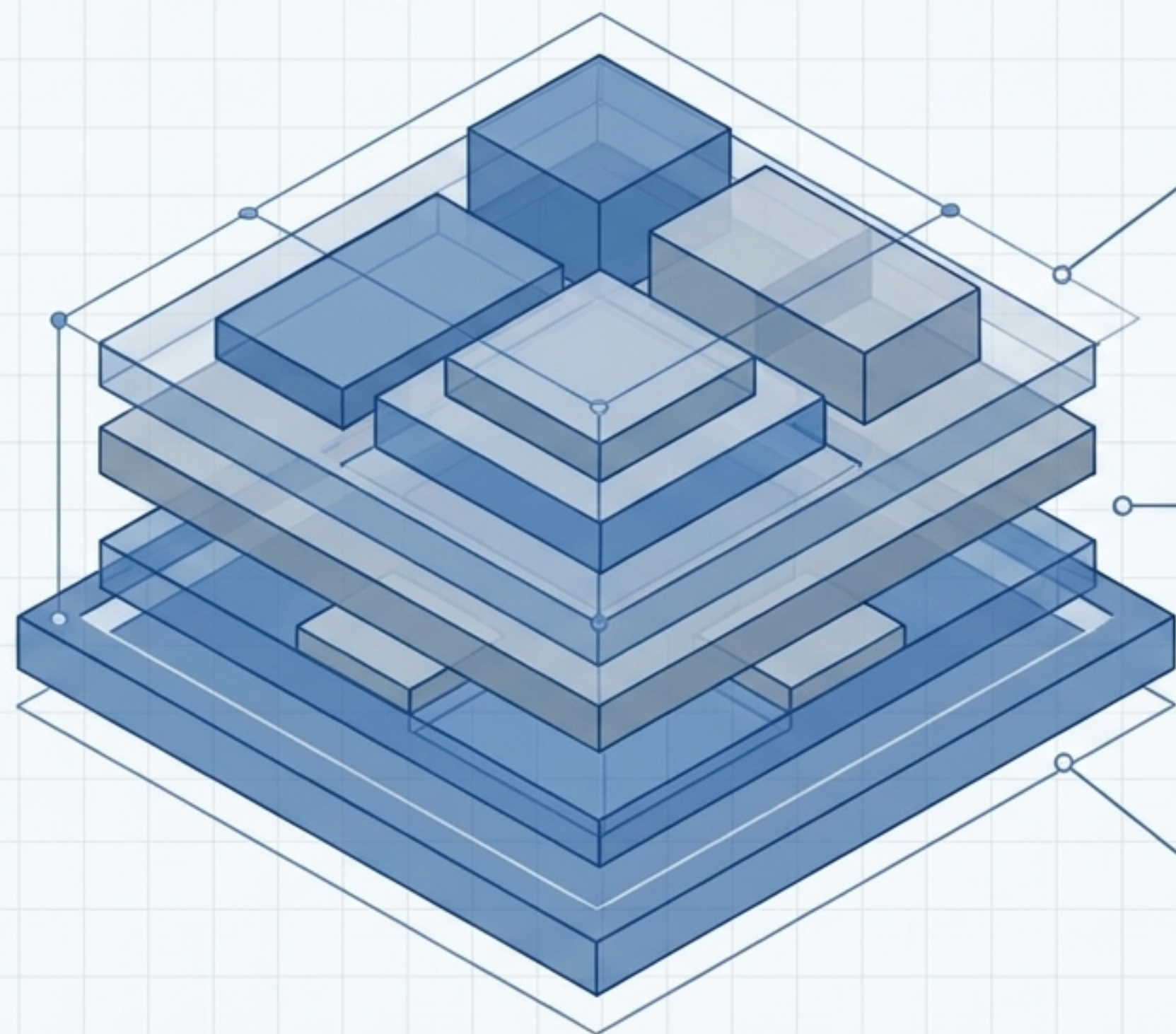
複雑な機械・化学系特許群と競合
製品の手作業による突き合わせ。

深刻な課題

1案件につき「数日～数か月」の
長期化。意思決定の遅延と、高度
な専門性を持つ知財人材が単純
な「情報探索作業」にロックイン
される構造的ジレンマ。



解決策：統合型AIプラットフォーム「Patlytics」の導入



コンセプト

単なる法務生成AIやキーワード検索ではない。特許業務の全工程に特化してゼロから設計された統合型AI基盤。

コア実装

旭化成が中核的ボトルネック解消のために実装した「侵害検出（Infringement Detection）モジュール」。

選定理由

エンタープライズレベルの強固なセキュリティ体制と、各国特許庁データベースを網羅する多言語・多法域対応能力。

コア技術① 構成要件の自動構造化とマッピング



分解

入力された請求項をクレーム解釈に基づき、構成要件単位（「1a」「1b」「1c」...）へ自動分解。

情報収集

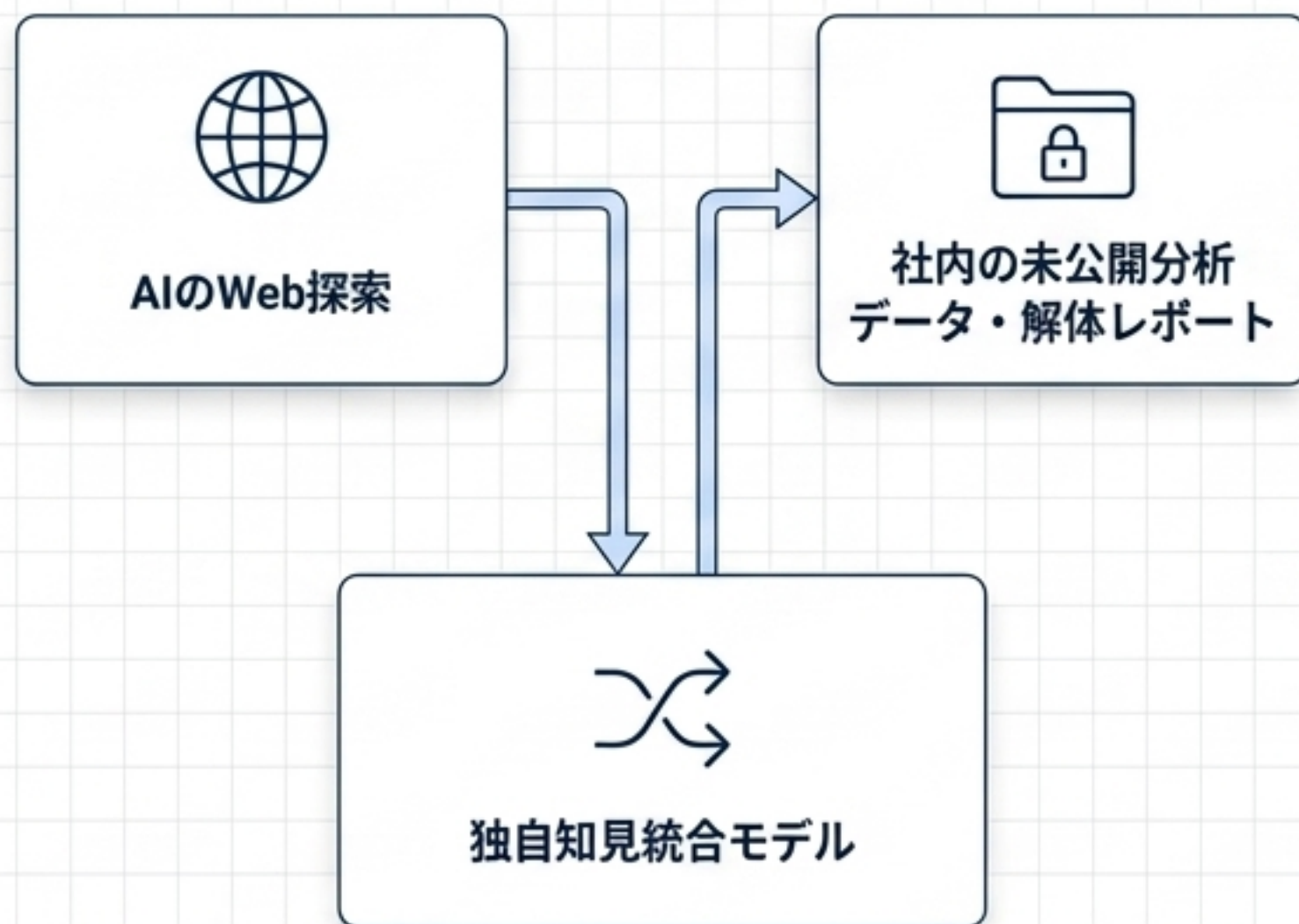
Web上の公開情報、製品データシート、FCC提出書類等を広範に自動クロール。

構造化対比

構成要件と製品情報を対比させた「構造化クレームチャート」を即座に生成。複雑な機械・化学技術分野でも高い網羅性を発揮。

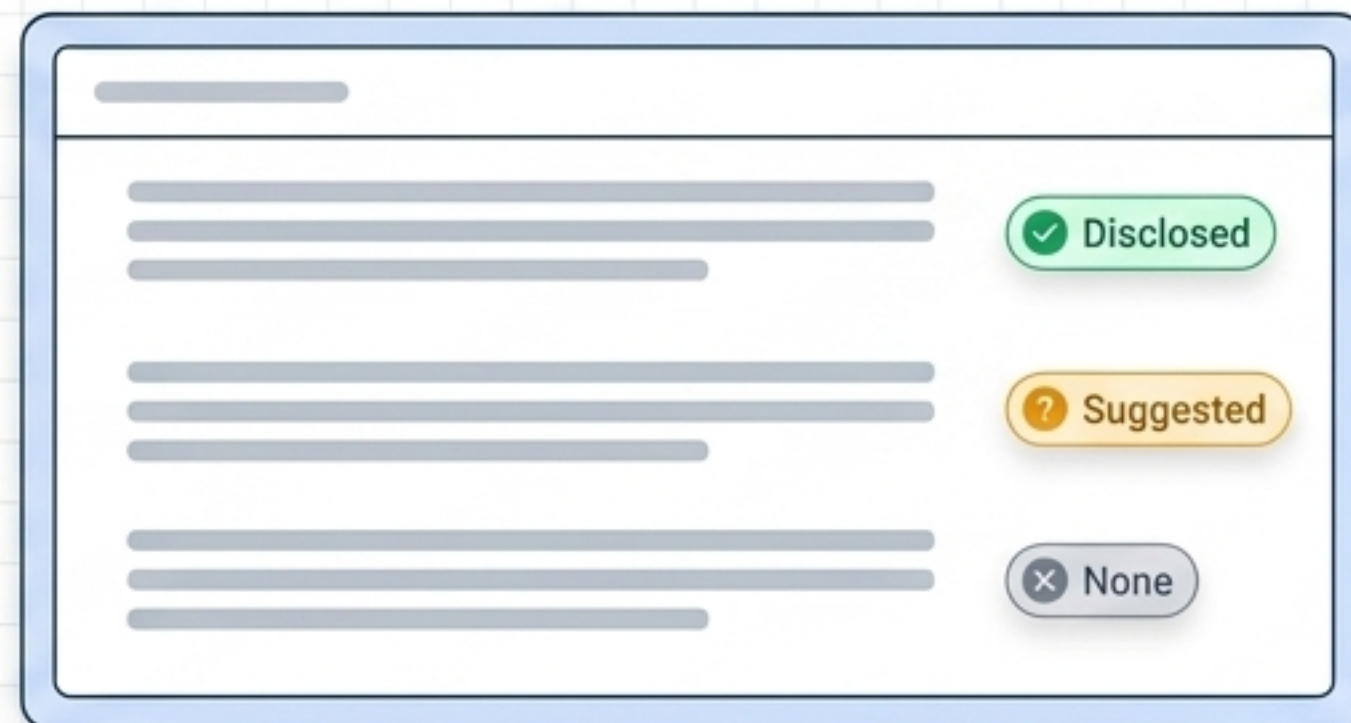
コア技術② 独自知見の統合とハルシネーションの完全排除

Custom Product Feature Inputs



多角的なターゲットアプローチにより立証精度を劇的に向上。

Pin-point Citation技術



すべてのマッピング結果に元文献の具体的一節（段落、行番号、図面番号）を直接紐付け。虚偽出力を防止。

- Disclosed（直接的開示）
- Suggested（推論を要する一部一致）
- None（証拠なし）

知財専門家が瞬時に監査・検証可能な信頼構造。

従来型プロセスとAI実装型プロセスのパラダイムシフト

	従来型プロセス	Patlytics実装型プロセス
サイクルタイム	1案件あたり数日～数か月	数時間へ劇的短縮
調査・立証コスト	基準値（過大な人件費・外部調査費）	レポート1件あたり \$1,000-\$5,000（USD）削減
情報ソース	手動による断片的な探索	自動Webクロール + 自社独自データの統合
検証・信頼性	担当者の習熟度に依存・再確認コスト増	ピンポイント引用と3段階視覚判定による迅速な監査
人材の役割	データ収集・スクリーニングへの偏重	戦略的意思決定・ライセンス交渉への特化

定量的インパクト：圧倒的な投資対効果（ROI）

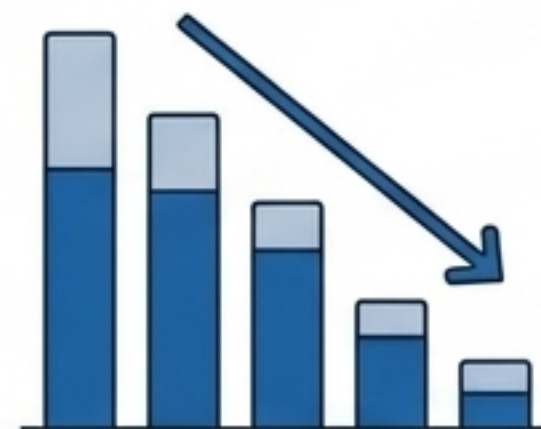
TIME



数ヶ月 → 数時間

一連の調査ワークフローを根底から加速し、意思決定の遅延を解消。

COST



**\$1,000 ~ \$5,000
(USD) 削減 / 件**

侵害検出レポート1件あたりの直接的な費用削減効果。

SCOPE & QUALITY

機械技術分野

- 構成要素の視覚化により、証拠検出スピードと網羅性が飛躍的に向上。

化学技術分野

- 複雑な解析においても整合性とデータ収集効率の確立を証明。

定性的インパクト：知財プロフェッショナルの役割変革



作業 (Task)

知財担当者を「定型的な情報検索」や
「膨大な対比表の作成作業」から
完全に解放。

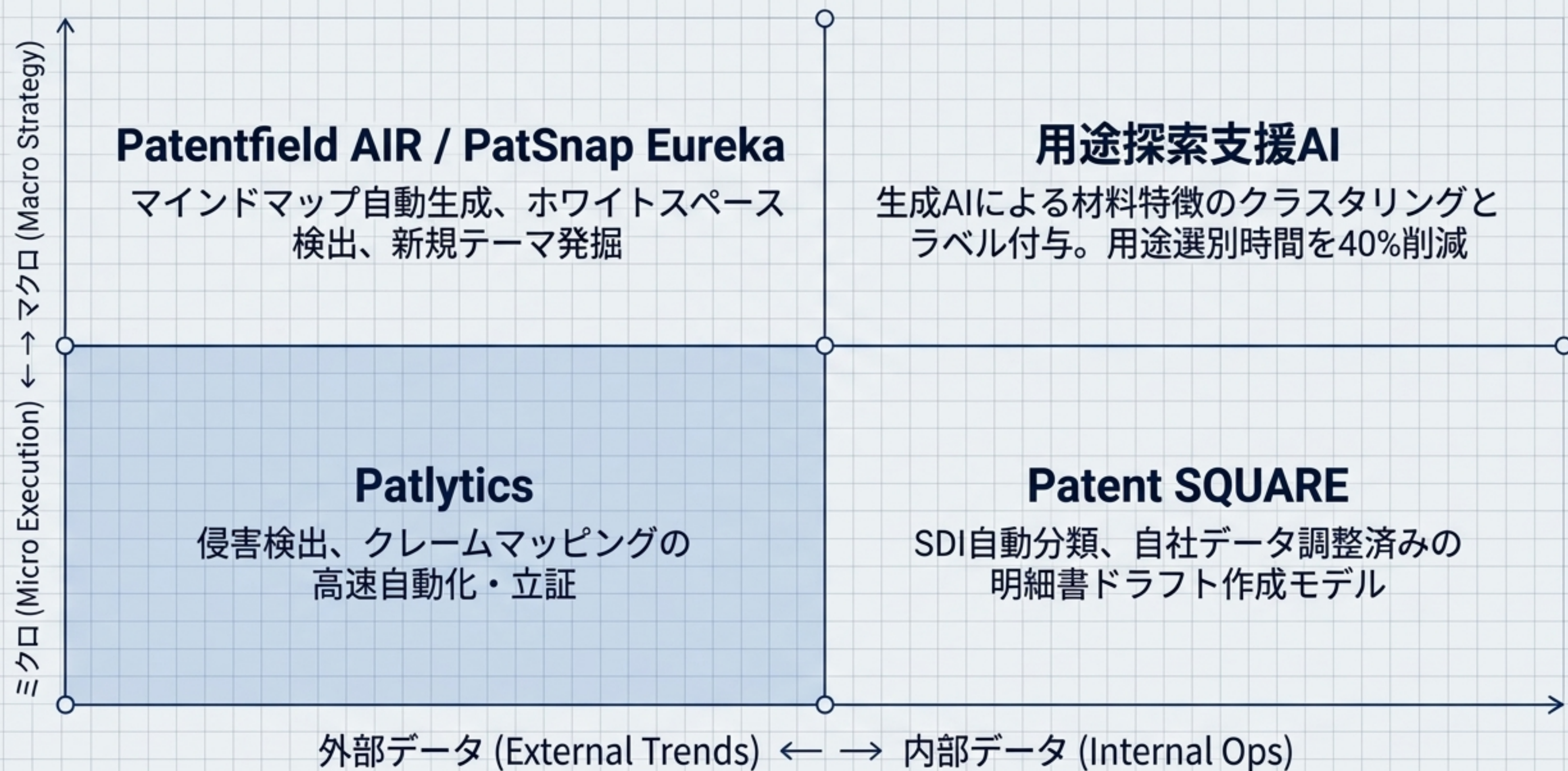


戦略 (Strategy)

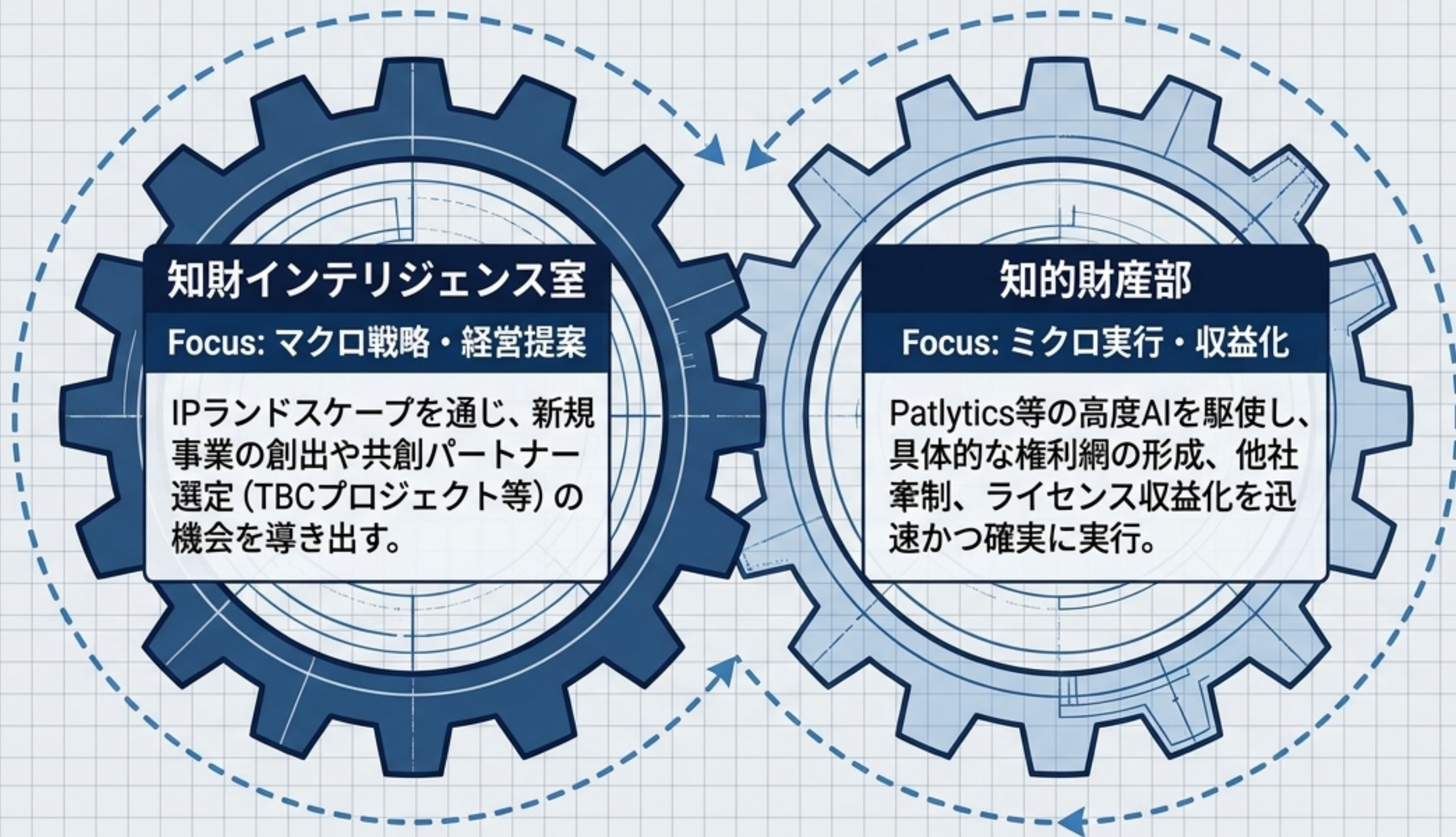
高付加価値業務へのシフト：

1. 収集された強固な証拠に基づく、
ライセンス交渉戦略の立案。
2. 権利行使の可否に関する高度な意
思決定。
3. アセットライト戦略推進のための、
事業部への戦略的提言。

旭化成の全社知財AIマルチツール・エコシステム

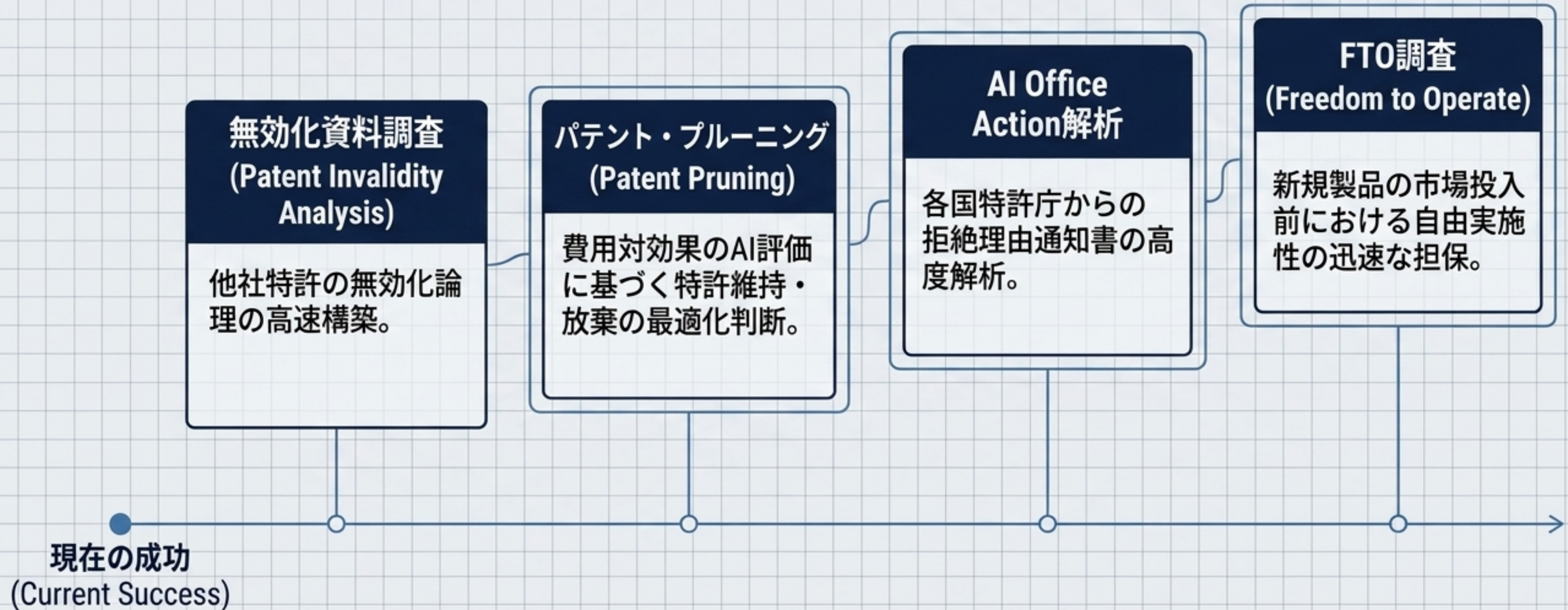


ツールと組織体制の強固な連動



今後の展望：特許ライフサイクル全域へのAI拡張

侵害検出での極めて高いROIを足がかりに、実務適用範囲を順次拡大。



結論：無形資産を「収益資産」へ変革する青写真

- ◆ 独自データの統合と徹底したハルシネーション排除（ピンポイント引用）は、厳格な精度が求められる化学・製造業界における知財AI活用の「標準仕様」を提示した。
 - ◆ 特許ポートフォリオを単なる「防御壁」から、事業優位性を高める「高収益な収益資産」へとパラダイムシフト。
- 旭化成は、ミクロなAI実装とマクロな知財戦略をシームレスに融合させ、「Proactive IP licensing worldwide（グローバルな能動的IPライセンス）」を現実のものとしている。